

●第17回 NCLセミナーのご案内●

「創造する脳～いのちの始まりの脳科学」

●日時) 2016年3月14日(月) 13:00～17:00

●会場) フクラシア品川クリスタルスクエア ルーム3G
(東京都港区港南 1-6-41 品川クリスタルスクエア 3階)

●参加) 会員および一般市民 80名 (参加費無料)

●趣旨)

赤ちゃんの誕生は、母胎の中でヒトの進化の歴史をたどる壮大で神秘的なドラマといえるでしょう。今回のセミナーでは、胎児の脳が人間として生きていくために、どのように発達していくのか、いのちの始まりの脳科学の世界をご案内しましょう。

胎児医学や胎児心理学の世界的権威トマス・バーニー博士は、妊娠6カ月ぐらいから好ましい刺激を胎児の脳に与えれば、脳の成長を促したり、より高度なシナプスの形成ができるとしています。

このような胎児の脳の成長に関わる好ましい刺激とはどのようなものかについて、遺伝子医療の分野から京都大学大学院医学研究科の山田重人先生に、また認知・発達科学の分野から京都大学大学院教育学研究科の明和政子先生に、今わかっていること、これから何がわかる可能性があるのかをお教えいただき、お母さんのお腹のなかから始まる赤ちゃんの人生をいかばかりかでも応援させていただければと願っています。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。 NCL理事長 多根 伸彦

●プログラム)

13:00～13:05 開会のあいさつ

13:05～13:45 「研究者支援奨励賞」「開発者支援奨励賞」授賞式

13:45～14:55 講演「ヒト胎児の脳発達～かたちで何がわかるのか」山田 重人 教授
<休憩 15分>

15:10～16:20 講演「胎児期からはじまるヒトの心のはたらき」明和 政子 教授

16:20～16:50 質疑応答ならびにクリエイティブ・ディスカッション

16:50～17:00 閉会のあいさつ

●講演者のご紹介)

山田 重人(やまだ しげひと)

平成10年 京都大学医学部附属病院(産婦人科研修医)勤務。平成12年 兵庫県立尼崎病院(産婦人科・技術吏員)勤務。平成18年 京都大学大学院医学研究科(附属先天異常標本解析センター)助手。平成18年 アメリカ国立衛生研究所 心臓肺血液研究所 遺伝子発生生物学センター 発生生物学部門 Postdoctoral Fellow。平成20年 京都大学大学院医学研究科(附属先天異常標本解析センター)助教(復職)。平成20年 京都大学大学院医学研究科(附属先天異常標本解析センター)准教授。平成22年 京都大学医学部附属病院遺伝子診療部(兼任)。平成24年 京都大学大学院医学研究科(人間健康科学系専攻)教授。京都大学大学院医学研究科附属先天異常標本解析センター 教授(兼任)。平成25年 京都大学医学部附属病院遺伝子診療部 副部長(兼任)。



明和 政子(みょうわ まさこ)

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。
京都大学大学院教育学研究科准教授を経て、現在、同教授。日本学会会議連携会員。
ヒトの心的機能、とくに社会的認知の生物学的基盤の解明を目指し、京都大学霊長類研究所にて十数年にわたりチンパンジーの認知機能研究に取り組む。

その後、ヒト特有の心的機能の個体発生に研究の重心を移し、胎児期からの認知発達研究に従事、「比較認知発達科学」という新たな学問分野を創生した。

おもな著書に、『まねが育むヒトの心(岩波書店)』『心が芽生えるとき—コミュニケーションの進化と発達(NTT出版)』など多数。

